



浄光寺跡推定域

～九州屈指の中世寺院跡～

現在の蓮華院誕生寺一帯は、南北約 350m、東西約 250mの範囲で道路が方形に巡っており、その範囲は中世に存在した浄光寺の跡と推定されています。『肥後国誌』には、平安時代後期に平重盛によって浄光寺蓮華院が建立されたと記載され、『東妙寺文書』には、患空（鎌倉時代中期頃の僧侶）によって建立された真言律宗の寺院とされています。現在、遺跡名としては「浄光寺蓮華院跡」となっており、周辺は南大門遺跡、蓮華遺跡としても発掘調査しています。



■南大門遺跡



再建された南大門



南大門遺跡で検出された1・2号溝



南大門遺跡出土の鬼瓦など

中世瓦が語るもの…

～南大門遺跡の発掘調査～

『肥後国誌』には、南大門を開閉する音が吉次峠（玉東町）まで響いていたと記載されています。現在、南大門が再建されていますが、この建設に伴い、発掘調査を実施したところ、溝状遺構や多量の瓦溜りなどが検出されています。確認調査では鬼瓦の一部も出土しており、立派な門や土塀（築地塀）があったと想定されています。



南大門遺跡出土の中世瓦

■かんぱくとう 関白塔 (市指定重要文化財)

～九州最大級の五輪塔～



関白塔

蓮華院誕生寺の正門東側に2基あり、阿蘇溶結凝灰岩製で、いずれも高さが2.5mを超えます。皇円上人の祖である関白藤原道兼の菩提を弔うために建立されたと伝えられています。真言律宗では、鎌倉～室町時代にかけて僧の墓塔として梵字を刻まない大型の五輪塔を造営しているのが特徴です。奈良の西大寺や京都の石清水八幡宮にある塔が大きいです。これは九州最大級を誇ります。



浄光寺跡に残る五輪塔群

■浄光寺跡周辺の出土物

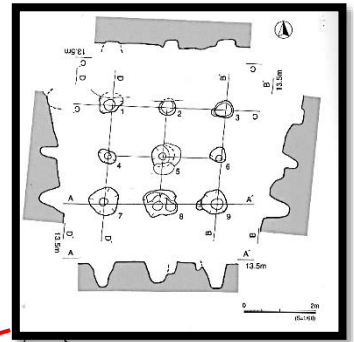
～よみがえる中世の風景～



土坑等から出土した石造物や割れた茶臼



土壌墓 (S108)



掘立柱建物跡



掘立柱建物跡 (3間×6間)

庫裡や客殿・僧坊と想定されています。

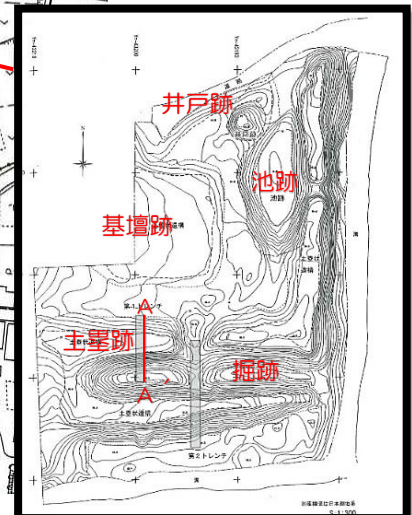


土壌墓 (昭和61年調査)



焼けた茶臼

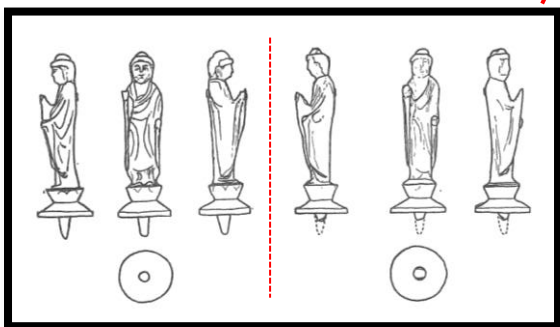
昭和61年調査区出土品



平成7年度調査区の基壇跡や土塁跡



土塁と堀の断面 (A-A')



金銅阿弥陀如来立像 (2点)



金銅製の仏頭と燭台



土壌墓 (S108) 出土



土壌墓 (昭和61年調査区) 出土



滑石製の石鍋でほぼ完形です。ススの付着が著しく直前まで使用されていたとみられ、火熱で欠損した一部は別の滑石片で補修されていました。